

景気・雇用・生活の最優先

鳩山政権の五つの課題、

- ① 官僚主権政治（財務省・検察・裁判所―権力機構）からの脱却
- ② 政治権力と大資本の癒着解消
- ③ 対米隷属からの脱却
- ④ 市場原理主義を排しセーフティネットを整備
- ⑤ 郵政改革の実現

を中心に、鳩山首相の見解が

示されている。

国民にとってもっとも切実な問題は景気、雇用、生活の問題である。

①の官僚主権政治からの脱却において、最大のターゲットは財務省、検察、警察、裁判所である。藤井裕久財務相は大蔵官僚出身であるだけに、どうしても「情」の部分で財務省の意向を付度（そんたく）してしまう嫌いが否定できなかった。

鳩山政権閣僚のなかで、もっとも明確に「霞が関主導からの脱却」、「脱官僚」の方針を示してきたのが菅直人副総理であり、この意味で、菅直人副総理の財務相就任は最適な人事である。

財務省は菅直人副総理の財務相就任を最も嫌ったと考えられる。財務省が影響力を行使して、マスメディア報道では、野田佳彦財務副大臣、仙谷由人行政刷新相の財務相就任が誘導された形跡が色濃い。鳩山首相はこうした誘導をはね

返して菅直人副総理の財務相就任を決定した。

マスメディアと霞が関守旧

派勢力が結託して鳩山政権攻撃を継続している。小沢一郎民主党幹事長の政治資金をめぐる検察の行動は常軌を逸しているとしか言いようがない。自民党議員の政治資金に巨大な闇が厳然と存在しているにもかかわらず、歴史的に自民党議員の巨悪には自制し、まったく関心を示さない。生き残留ため、私利の選択肢は既にそれしかないのである。

「守旧派勢力」の一角を占める大資本は「カネ」の力でマスメディアを支配して鳩山政権総攻撃を応援している。権益の中核、米国が一連の鳩

山政権攻撃の黒幕であることは言うまでもない。

捨てる練習

私たちは裸で産まれて来た。死んだ時も、何一つ持たないまま次の次元へと旅を続けます。

ここに、私たちの全ての悩みを解決する答えが在ります。要は、この世で得たものは全て、捨てて行かなければ生けないのです。自分の肉体でさえもです。

自分が努力して得た品物、名誉はもちろん、他人を苦しめ争つてまでして得た物、異性・なども必ず置いて行く事に成ります。

本当に捨てて行く事ができますか？

もし、捨てる事が出来なければ、死ぬときの状態が継続したまま、この世に留まる事に成る法則が在ります。この世に留まる限り、死んだ時の状態が継続します。つまり、激痛で苦しいまま亡くなれば、そのままの状態です。安らかに亡くなっても、この世の物事に未練があれば、段々と未練の思いに苦しみます。

だから人間は、普段から「良い意味で」物事への執着を「捨てる練習」を意識した生活が大切です。



今年こそ安保改訂50年→核開武装？

アメリカと云う国は、気に入らねば、自国の利益に導者を絞首刑にしてしまう

ならずとも思えば、他国の

政治制度にまでケチをつけ戦争をおっぱじめるまでも

イサイ…だ。

(有)西川経営オフィスサービス
中村会計
事務所便り
 2010年1月12日 (火) N093
 地域から明るい未来を作ろう